

3日目 オフィチエンシム アウシュビッツ第2収容所 ビルケナウ-6

アウシュビッツではなく、オフィシエンチムに触れる

アウシュビッツ最終日の夕食時、実は数名の参加者がいませんでした。

何をしてたかというと、

現地の人にオフィシエンチムを案内してもらっていたのです！

オフィシエンチムはポーランドのアウシュビッツ収容所のある地名です。

戦争中は、ドイツ軍が地域一帯をアウシュビッツと名前が変えてしまい、戦後ポーランド名に戻りました。

だから、アウシュビッツ収容所に見学に行く場合、クラクフから電車で移動する目的地はオフィシエンチム駅になります。

オフィシエンチムは、アウシュビッツだけじゃないのよ！

私たちが昔から暮らしていて、普通の生活がある。

それを知ってほしい、

そういう申し出であったと聞いています。

いわれてみれば、

ずっとオフィシエンチムに先祖代々住んでいたのに、

ナチスがやってきて、追い出され、

5年もしないうちに帰ってきてみれば、

自分たちの土地でむごいことをやっていた

けれども、そこには自分のルーツがある、

だから、そこに住み続ける

たしかにビルケナウの近くにも多くの住宅がありました。

なにはともあれ、夕食時にそれぞれが体験を語っているときに、

数名はオフィシエンチムの夜の街にでかけ、

翌日は、教会のミサにも参加し、その人たちの家族とも会い、

おみやげもいただいて

オフィシエンチムという街の別の一面と、

懐の深さを体験してきたようです。

もともとツアーの趣旨としては、
ポーランド人がアウシュビッツをどう考えるか、
を知ることでもあったので、
それに参加した人は、非常に幸運だったと思います。

私もおこぼれで、「ポーランドの一番少額のコイン」とヨハネ・パウロ2世のバッジをいただきました。

前回きたときにヨハネ・パウロ2世がポーランドにいらした、ということをお話したのと、少額のコインは幸運をもたらすからだそうです。いまでも財布に入れてあります。



ビルケナウの奥から入り口を望む。左手に住宅が見える。 Saita(c)